

都道府県名	愛知県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

豊川市立南部中学校						
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	6	7	2	21	41
児童数	222	236	258	7	723	

実践研究の概要

1 主題

「確かな学びを子どもたちに - 一人一人を大切にした教科指導 - 」

2 内容と方法

(1) 実施学年・教科（平成15年度）

1・2・3年	数学	（生徒に理解の状況に差がしやすい教科であるため）				
1・2・3年	英語	（言語指導にあたり効果的な指導が期待できるため）				
1・3年	理科	（実験操作の個別支援にあたり効果的な指導が期待できるため）				
2年音楽	3年美術	2・3年技術・家庭	（物作りなどの技能習得にあたり効果的な指導が期待できるため）			

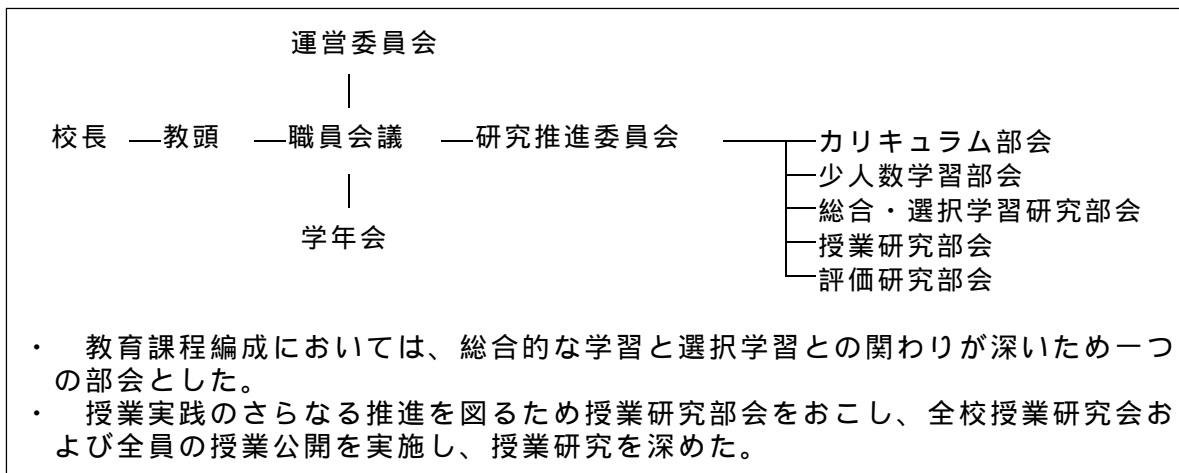
(2) 年次計画

平成14年度	テーマ 「確かな学びを子どもたちに - 基礎・基本を重視した教科指導 - 」
	仮説 少人数による学習指導を行うことで、教科の基礎的・基本的な内容の理解が深まるであろう。
	研究内容・方法 ・3年生英語において生徒のモチベーションによる2クラス3コースの少人数授業（コミュニケーション・リーディング等） ・1・2・3年生数学において2クラス3コースの習熟度別少人数授業（前単元における学習の到達度に生徒の希望を加味）

平成15年度	テーマ 「確かな学びを子どもたちに - 一人一人を大切にした教科指導 - 」
	仮説 生徒の学習状況をとらえた、きめ細かな指導の手立てを工夫することによって、生徒の学習意欲が高まるであろう。
	研究内容・方法 ・数学・英語等での少人数授業 ・評価規準の見直し ・単元評価カード・自己評価カード・学習カード等の改善 ・学力検査による教科目標到達度の検証

平成 16 年度	<p>テーマ 「確かな学びを子どもたちに - 一人一人を大切にした教科指導 - 」</p> <p>仮説 教科のねらいに迫る効果的な教材を開発することで、生徒の学習意欲が高まり、基礎的・基本的な内容の到達が容易になるであろう。 また、適切な評価方法を工夫することで、一人一人の確実な習熟を図る指導方法の改善の手立てとなるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学・英語等での少人数授業 ・ 教科のねらいに迫る効果的な教材の開発 ・ 指導との一体化を図るための評価方法の工夫 ・ 学力検査による教科目標到達度の検証
----------------	--

(3) 研究体制



平成15年度の成果及び課題

1 研究の成果

<p>成果</p> <p>< 指導体制・方法 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学における少人数授業では、習熟度によるクラス編成の仕方に工夫をした。前単元での到達度や生徒の希望を加味しながら、適正な学習集団の編成に心がけた。2学期末の生徒アンケートでは、「選んだコースに満足できたか」および「分かりやすい授業だった」の回答が、それぞれ約85%・86%（十分満足及びほぼ満足）と高かった。 ・ 英語では3年生において少人数授業を実施した。英語科の目指す「コミュニケーション能力の育成」では、生徒同士が安心感をもって会話練習を行える環境が大きく関わり、学級集団を母体とすることが効果的であると考えた。そこで昨年度は2クラス3コースにより行ったが、本年は1クラスを2分割して実施した。生徒対教師の会話練習の機会が倍増し、生徒の授業への意欲がとても高まっている。 ・ 少人数授業については、PTA総会・学校公開日・学校だより等により保護者への周知を図ってきた。12月に実施した保護者アンケートでは87%から有効な学習方法であるとの回答をいただいた。 <p>< 教材の工夫・開発 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別授業において、一人一人にきめ細かな指導を行うために自己評価カード（学習カード）やワークシートを工夫した。自己評価カードには単元で学習すべき内容（基礎・基本）を記載し、理解の度合いを自己評価する欄を設けるなど、生徒の学習の歩みと教師の支援や指導を一体化できるようにした。そして、習熟別コースに合わせた内容のワークシートを開発することで個々の生徒の理解状況に合わせた学習に取り組めるよう工夫をした。
--

< 評価 >

- ・本校では、形成的評価を重視し、各単元における学習のねらい（基礎・基本）への到達度を評価した「単元評価カード」を作成している。これによって一人一人が自らの学びを振り返るとともに、学習方法や態度の改善につなげるものとして効果をあらわしている。2学期末の生徒アンケートでは、「自分の得意なところや苦手なところがわかりますか」の設問に85%が「そう思う」と回答している。また、「自分の勉強の仕方を変えたり、授業態度をよくしようという気持ちになりましたか」には83%が「そう思う」と回答しており、生徒の学習への取り組みに変容を促す手立てとなっている。

2 今後の課題

- ・きめ細かな指導を進めるうえで、指導内容・進度調整・評価の情報交換など授業に関わる打ち合せの機会を確実に持つことが必要である。
- ・生徒が学習のねらいを把握し、自らの学習を見つめて取り組む学習カードの開発と習熟別コースに合わせた内容のワークシートの開発が必要である。これによって一人一人の生徒の理解状況に合わせた教師の指導を行っていきたいと考える。
- ・少人数授業では生徒のコース選択変更、指導教師の交替が必然的に起こる。評価にあたっての評価規準の精度を高め、一人一人の生徒の学習評価を正しくとらえる評価方法を工夫しなければならない。

学力把握のための学校としての取組

教研式CRT検査を4月に実施

- ・基礎・基本の定着度を客観的に把握する。
- ・観点別学習状況の目標の実現状況を見る。

少人数・TT授業についての意識調査を12月に実施

- ・生徒の授業への参加意欲および指導体制や方法の適否の意識を把握する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及（平成14年9月以後）

東京都指導主事会7名訪問（平成14年9月17日）

- ・「授業参観および学校概要・研究概要説明」

福島県いわき市教育委員会に研究実践資料を提供（平成15年2月）

- ・「少人数授業・時間割編成・教材の開発等」

「子どもを育む評価」<三河教育研究会・調査委員会編>（平成15年3月）

- ・「活動の意欲化を図る評価の工夫」の実践を寄稿

栃木県河内郡古里中学校職員1名訪問（平成15年3月17日）

- ・「学力向上フロンティア事業」について情報交換および意見交流

佐賀県伊万里市立伊万里中学校職員2名訪問（平成15年3月19日）

- ・「学力向上フロンティア事業」について情報交換および意見交流

日本教育新聞に本校研究実践を寄稿（平成15年1月14日版）

- ・「弾力的な授業時間の設定（短い時間）」

教育新聞に本校研究実践を寄稿（平成15年7月14日版）

- ・「確かな学びを子どもたちに - 基礎・基本重視した教科指導 - 」

平成15年度愛知県中学校教育課程フォーラムにて本校の実践発表

（平成15年7月15日）

- ・「理解習熟程度に応じた指導の在り方・生徒が自分自身のものとする評価」

教育愛知に寄稿<平成15年12月号>（平成15年9月）

- ・「確かな学びを子どもたちに - 基礎・基本重視した教科指導 - 」

豊田市逢妻中学校職員3名訪問（平成15年10月21日）

- ・「学力向上フロンティア事業」について情報交換および意見交流

千葉県千葉市立轟町中学校職員1名来訪（平成15年10月27日）

- ・本校実践について情報交換および意見交流

